

別記第1号様式(第7関係)

会 議 録

附属機関又は 会議体の名称		令和6年度 第1回教育に関する事務の点検・評価委員会
事務局（担当課）		庶務課
開 催 日 時		令和6年11月18日（月）午後6時30分～午後8時00分
開催場所		豊島区役所 教育委員会室（本庁舎8階）
議 題		（1）教育に関する事務の点検・評価の実施について （2）令和5年度評価実施事業 取り組み状況報告 （3）評価対象事業のヒアリング及び質疑応答 「子どもスキップの運営」
公開の 可否	会 議	■公開 □非公開 □一部非公開 傍聴人数 0 人
		非公開・一部非公開の場合は、その理由
	会議録	■公開 □非公開 □一部非公開
		非公開・一部非公開の場合は、その理由
出席者	委 員 （敬称略）	福本 みちよ 宮澤 晴彦 原 まり子
	その他	教育長、教育部長、教育施策推進担当課長、学務課長、放課後対策課長、指導課長
	事務局	庶務課長

審 議 経 過

発 言 者	発 言 要 旨
	【開会】 委員自己紹介 事務局紹介 教育長挨拶 委員長選出 委員長職務代理者の指名
岩間庶務課長	本日、傍聴の方はいらっしゃいません。
福本委員長	それでは、議事に入らせていただきます。 議事 1 「教育に関する事務の点検・評価の実施について」事務局より説明をお願いします。
岩間庶務課長	【議事（１）教育に関する事務の点検・評価の実施についての説明】
福本委員長	ありがとうございました。委員の皆様いかがでしょうか。ご質問等ございましたら出していただければと思いますが。よろしいですか。
原委員	はい。
宮澤委員	はい、大丈夫です。
福本委員長	それでは私から。評価方法および評価の視点について。毎年この評価委員をさせていただいているのですが、この事務の効率性、有効性というところの関係性、ここが悩みどころです。 有効性なのか、効率性なのか、どちらだろうと毎年悩んでいたように思います。ここのところを３人で話す場面も持ちながらやっていかないと思います。 それから確認ですが、ご説明いただきました委員会の日程は現時点で確定ということでよろしいですか。
岩間庶務課長	はい、こちらでお願いします。
福本委員長	場所等もよろしいですか
岩間庶務課長	はい、３回目のみ、池袋小学校を予定しております。
福本委員長	ありがとうございます。それでは出していただきました案の通り、決定させていただきます。 続きまして議事２「令和５年度教育に関する事務の点検評価後の取り組み状況について」各課長よりご説明をいただきます。なお、質疑はすべての報告が終わった後にお願いしたいと思います。それでは資料２「取組状況報告」につきましてお願いいたします。

後閑教育施策推進担当課長 岩間庶務課長 村山放課後対策課長 大木学校施設課長 後閑教育施策推進担当課長	【議事（２）令和５年度評価実施事業 取り組み状況報告についての説明】 ・SDGsの達成に向けた取り組み ・文化財の保存と活用の推進 ・部活動の充実 ・学校施設環境改善交付金対象事業 ・幼稚園運営について
福本委員長	ありがとうございます。昨年度の評価後にその評価結果を受けて行った取り組みを中心に報告がありました。ここから委員の皆様から質問や意見を承りたいと思います。 まず宮澤委員からよろしいでしょうか。五つのテーマがございましたのでどのテーマからでもご発言ください。
宮澤委員	SDGs、非常に力を入れて、成果を上げてこられたと思います。最初は結構予算がついていたのですが、今後はコミュニティ・スクールに含まれるということで、学校としてSDGsの取組はなくなる方向ですか。
後閑教育施策推進担当課長	SDGsの取組みは自体は継続していきます。ただし、コミュニティ・スクールの中の活動の一つとして、これまで地域の皆様と築いたこの関係とか取組んだ事業とかをコミュニティ・スクールの中で引き続き継続したいと考えております。
福本委員長	ありがとうございます。宮澤委員、今の点に対してどうですか。
宮澤委員	学校としては、予算としてはつかなくなるってことですね。
後閑教育施策推進担当課長	現在予算の方は、区の財務部門と調整をしているところです。
宮澤委員	ぜひつけていただきたいと思います。
福本委員長	現場としてはぜひつけていただきたいという視点があるのかもしれませんが。ありがとうございます。 この点に関しましては原委員の方からもご意見あれば
原委員	すみません。私、分からない点があるのですが、コミュニティ・スクールとは、各学校にあるのですか。
後閑教育施策推進担当課長	現在、豊島区でコミュニティ・スクールの全校導入化を進めています。小・中学校30校ありますが、令和6年4月時点で8校導入しております。令和7年4月は5校増えて13校、令和8年4月には全校にコミュニティ・スクールに入れようと思っております。コミュニティ・スクールは、地域の皆様と一緒に地域とともにある学校というものを指すものなので、当然これまでのSDGsの活動を含めて、全体としてコミュニティ・スクールでやっていきたいと思っています。
原委員	ありがとうございます。先日、学校の方でこのコミュニティ・スクールをお聞きしまして、全校化ということをお聞きしたので。ただいつ頃からなの

	かなと思いました。私去年も SDGs フェスティバルに参加して、すごく良かったなと思いました。 学校の学習発表がこの間ありまして。1年生から6年生が学年によっていろいろ発表していたんです。6年生が SDGs の発表をしてまして、私達大人が勉強させていただくなっている、感心してお聞きしていたのですが、それがずっと伝わっていくということは、ものすごい効果があると思います。 私が区民ひろばと話をして、区民ひろばでもお子さんたちが発表することで、大人側も勉強になるのではと思いました。 学校の取り組みがいかに活かされているか感じました。私自身が17項目の理解がなかなかできなかったのですが、お話を聞きながらこうやってされるのだなということが分かりまして、本当にこの子供たちのこの SDGs に対する取り組みがすごいなっていることを思いました。
福本委員長	ありがとうございます。私から一つ質問してよろしいでしょうか。SDGs に関連した教育課程をコミュニティ・スクールに結びつけていく際、成果指標の扱いについて懸念があります。どちらに重点を置くかではなく、成果指標をどのように解釈し、見るかが重要だと思います。この点をペアで考えなければ、結局どちらに対しても曖昧な結果になり、成果が分からなくなってしまう恐れがあります。 成果指標をどのように関連付け、結びつけていくのかについて意識をもって議論することが必要です。この観点もぜひ考慮していただければと思います。何かご意見があればお聞かせください。
丸山指導課長	教育課程に位置づけということで、カリキュラムマネジメントにつけるなと思っております。ここも上手にやってきているところで、このCSに移行との関連ということに関しては、やはり学校だけではなく開いていこう、地域を学ぶこと、それから地域の人の手を借りること、それからそっと還元することになると思うのですが、指標といったところで、どこにというのは委員長が言われる通りと思うので、それこそ指導課と推進課と合わせて考えていかなければいけないと思っております。
福本委員長	ありがとうございます。それでは次の質問に移らせていただきたいと思います。ご質問ご意見あれば委員の皆様から出していただきたいと思いますがいかがでしょうか。
宮澤委員	文化財に関する件についてお伺いします。児童・生徒が文化財に対して抱く愛着を測るための新たな指標を設けるべきではないかと考えています。豊島区には多くの文化財があり、各学校でも文化財を活用した総合的な授業が行われていると思います。この点で、他の区よりも豊島区の活用が進んでいると感じています。 また、学芸員による地域の授業が中学校で試行実施される予定だった昨年の段階から進展があるのか、実際には行われているのかをお教えいただきたいです。 さらに、小学校では雑司が谷、椎名町、駒込のソメイヨシノなどについて、学校のホームページに情報を載せるためのアプリを導入・試行していると伺っています。児童がタブレットを活用し、それを通じて情報を発信することができると良いという声があります。このようなタブレット活用や資料作成に関する予定があれば、ぜひお知らせいただければと思います。
岩間庶務課長	現在、中学校に学芸員は配置されておりませんが、本年度は小学校 3

	年生を対象に、学芸員が出前講座を実施する計画です。具体的には、まず1~2校を選び、文化財をテーマにした講座を行います。中学生についても、どのような支援が可能か改めて検討したいと考えています。 また、地域の文化財を活用した事業に関しては、昨年行った活動が例としてあります。駒込のソメイヨシノ、雑司が谷のすすきみみずく、および椎名町のトキワ荘を題材にした授業を実施しました。生徒たちはタブレットパソコンを使用し、地域の題材に基づいたパワーポイントの資料を民間の方に作成していただき、資料の提供を受けました。この資料は、豊島区全体の学校でも活用できるように周知し、他の学校にも広めていきたいと思っています。
福本委員長	ありがとうございます。原委員いかがですか。
原委員	大丈夫です。
福本委員長	それでは私から一言。昨年この件を検討した際、何かを活用しなければならぬという気持ちが先行していたことを思い出します。今回の資料を拝見し、SDGsとの関連性や、最終的にどこに行き着くのかを考える中で、「愛着」というテーマに繋がったことが感じられました。活用ありきではなく、子どもたちの生活の中に本当に浸透させることが重要であると気付かされました。この点について、うまく繋がったと感じており、大変安心いたしました。ありがとうございました。
岩間庶務課長	補足させていただきます。新たに今回策定しました教育大綱の中でも、児童・生徒に地域の文化を知っていただくという体験の機会等を設け、そこから地域への愛情を育んでいくということも謳っております。そういった視点から、文化財の普及等について積極的に進めていこうと考えています。
福本委員長	ありがとうございます。いろいろなものが点ではなく線で繋がっているという感じでしょうか。ありがとうございました。よろしいでしょうか。それでは次の観点に移らせていただきたいと思います。何かございましたらお願いいたします。
宮澤委員	部活動の充実についてお話ししたいのですが、豊島区の土曜部活には、中学生の参加者があまり増えていない印象があります。それが1点です。また、令和5年度の教員アンケートについてですが、具体的にどのような内容で、教員が中学校の部活動をどのように考えているのかを知りたいです。特に、働き方改革の視点や、部活を続けたいという教員のニーズが複雑に絡み合っていると思います。アンケートの結果について、ぜひ教えていただきたいです。 さらに、取り組み状況の(6)には「教員の負担軽減を図るとともに生徒の意見を反映しながら」という記載がありますが、中学校の教員の思いもぜひ反映して、豊島区独自の部活が充実することを望んでいます。以上です。
村山放課後対策課長	土曜部活についてですが、昨年と同様にダンス部と合唱部を実施しています。さらに新たにマルチスポーツ部を追加しました。この部では、パリオリンピックでも注目されたアーバンスポーツ、例えばパルクールやブレイキンなどを取り入れ、怪我をしない体作りを目指します。区内にある企業のデサントさんの協力を得て、区内でこのマルチスポーツ部

	を立ち上げました。 また、昨年行ったプログラミングについては、通年ではなく、夏と冬にそれぞれ 1 回ずつ教室を設け、興味のある生徒が参加できる形にしています。 各部だいたい 10 人から 20 人程度参加しています。先日、土曜日に中池袋公園で行われた「みんなの晴れ舞台」イベントに、合唱部とダンス部が参加し、多くの区民の前でその成果を発表しました。同時に、小中 P 連の音楽のつどいも開催され、こちらにも合唱部とダンス部が参加しました。 教員の部活動に対する考えについては、私が 8 月に全 8 校を回った際、アンケート結果をもとに、校長先生や顧問の先生にヒアリングを行いました。やっぱり皆さん意見は分かれるところで、成長過程を見たいと考える先生もいれば、部活動を切り離したいという意見もありました。中には、既に別の部活動を持っていたり、家庭の事情で躊躇している教員もいました。これらの生の声を聞く中で、上手く進める方法を模索しています。 全てを一度に変えるのは難しいため、スモールスタートで例えば 1 校につき 1 部活を設定したり、モデル校を数校選定して、地域連携や地域移行を進める提案も私個人の見解として持っています。全てを一変することは難しいですが、徐々に変化を遂げていければと思っています。以上です。
宮澤委員	ありがとうございます。もう 1 点伺いたいのですが、部活動をやりたいと考えているけどできない教員がいて、指導員を補充するとか。先ほどの豊島の土曜部活のように、ダンスやプロタイミングなど、現在の部活動とは少し異なる形の受け皿があるのは良いことだと思います。そこで、そういった活動を支援するための予算や、指導員の配置状況について、現状を教えてくださいませんか？
村山放課後対策課長	現在、部活動指導員は全 8 校中 2 校に配置されています。おっしゃる通り、土曜日の部活動では、学校にない部活が多く、特にサッカーや野球、バスケットボールなどの人気のある競技を行いたいが、指導員が不足しているために実施できない、または生徒数が少なくチームが成り立たないという意見が寄せられています。本当はそういった学校部活の方を助けたいという思いがあるのですが、現在その見直しを検討中です。 現在、部活動指導員は 2 名ですが、来年度には全校に 1 名ずつ配置したいと考えており、その要望を出しています。また、区によっては部活動指導員が多数配置されているところもあるため、将来的にはそういった方々にもご活躍いただきたいと考えています。
福本委員長	ありがとうございます。このテーマは、エンドレスに議論が可能であると感じています。昨年度の議論でも、具体的な方向性についてはまだ模索中であるという話がありました。国の方針や他自治体の動向も含め、確固たるものは存在しないと思います。そのため、数年間は豊島区としても、どのように進めていくかを検討する必要があると考えています。しかし、その中でどの方向に軸足を置くのかを明確にしないと、方向性がブレブレになってしまうと思いますので、何らかの軸を確実に設定することが大切だと感じています。 よろしいでしょうか。では次の他のテーマご質問等ご意見あればお出しただいただければと思いますが。原委員いかがでしょうか。何かございましたら。
原委員	大丈夫です。

福本委員長	ありがとうございます。宮澤委員いかがでしょうか。
宮澤委員	学校施設の環境改善に関して、学校から様々な要望が寄せられていると思いますが、優先順位が付けられていると考えています。SDGs との関連で言えば、目白小の改築の際、太陽光パネルを設置し自家発電を行っていましたが、その後の池一の取り組みについてはどの程度進んでいるのか気になります。 また、プールの老朽化についても、多くの学校から「水泳をどうするのか」という意見が寄せられていると思います。継続する場合は修繕が必要だという意見が多いと思うのですが、その点について何か情報があればお聞きしたいです。 ここはちょっと関係ないのですが、あれば聞きたいと思います。
大木学校施設課長	太陽光発電については、基本的に改築校につきましてはすべて導入しています。一方、未改築の学校では大型の太陽光パネルの設置が難しい状況です。しかし、改築工事は着実に進めており、自家発電を利用している学校もあれば、売電で使用している学校があるなど、各学校の設置状況によって利用方法は様々ですが、いずれにしても太陽光発電は環境教育の観点からも防災時の電力確保の観点からも、重要な役割を果たしています。 プールについては、今年の改修要望調査で床の剥がれやグレーチングの修繕が必要との意見が寄せられています。この調査をもとに、学校からの要望を優先順位付けし、施設整備課と調整して現地確認を行い、予算を編成していく予定です。プールに関しては、多くの学校から要望があり、濾過器などの設備についても、しっかりと対応できるよう施設整備課と調整を進めてまいります。
福本委員長	ありがとうございます。このテーマについては昨年度も多くの意見が寄せられましたが、特に防災の観点では、学校だけで完結するものではなく、地域の方々との協力が非常に重要で、区民やご近所の方々の意見をどのように吸い上げていくかという点にも、丁寧に取り組んでおられた印象があります。ぜひこの点を今後も継続していただければと思います。ありがとうございます。 それでは、最後のテーマに移りますが、幼稚園の運営に関してお気づきの点やご質問がありましたら、お聞かせいただきたいと思います。いかがでしょうか。
宮澤委員	幼稚園についてはここ数年にわたり検討が行われていると思います。今年の入園者数も非常に少なく、2 人や 3 人という状況です。こども園も含めて、今後の方向性についてはどうなるのか気になります。園児が減少している中で、様々な意見が出ていますが、特に 3 年保育や幼児保育無償化が進む中で、幼稚園は厳しい状況に直面していることは確かです。この減少傾向を受けて、今後の検討状況や対応策について、どのようにお考えかお聞きしたいです。
後閑教育施策推進担当課長	共働き世帯の増加や幼児保育の無償化といった影響を受けて、平成 29 年以降、本区において園児数が減少している状況があります。この部会では、これらの状況を踏まえ、今後の方針を検討しています。具体的には、預かり保育の拡充や、共働き世帯のニーズを反映したお弁当提供の仕組みを整えることが挙げられます。

	また、「働きながら幼稚園にも通わせたい」といった保護者も一定数いることが確認できましたので、今後はこうしたニーズに応えるサービスをモデルケースとして取り組み、その成果を丁寧に検証し、さらなる改善を図っていく所存です。
福本委員長	ありがとうございます。
宮澤委員	こども園についてですが、どんな方向になっているのですか。
後閑教育施策推進担当課長	最終報告書に関してまだ確定していない部分があるため、現時点では断言できませんが、認定こども園について考慮すると、当初は何十人もの特待児童がいましたが、令和 2 年以降、豊島区はその問題を解消している状況です。国が示す認定こども園の意義は 4 つありますが、それが果たして達成されているのか、あるいは達成されていないのかを検証する必要があります。達成されていない場合、その施策を進める意義がどこにあるのかを考えなければなりません。この部会の報告書をもとに、さらに検討を進めていく所存です。
福本委員長	ありがとうございます。よろしいでしょうか。昨年度のご質問やご意見について、取り組み状況に反映された教育ビジョンとなるのでしょうか。私の理解では、これらの意見がかなり吸収されていると思いますが、その理解でよろしいでしょうか。
後閑教育施策推進担当課長	幼児教育部会で示された幼児教育センターですとか、幼児教育アドバイザーですとか、就学前の共通プログラム、そして保幼小連携、こういったところも示されておりますので、教育ビジョンには、そのあたりしっかりと反映するように動いております。
福本委員長	ありがとうございました。昨年度の取り組み状況報告に関してはここまでとさせていただきたいと思います。 続きまして議題の第 3 「今年度の評価対象事業について」 ご説明いただきたいと思います。お願いいたします。
村山放課後対策課長	【議事（3）評価対象事業のヒアリング及び質疑応答「子どもスキップの運営」の説明】
福本委員長	ありがとうございました。ただいま、子どもスキップの運営について、ご説明をしていただきました。 それでは委員の皆様からは、今のご説明をもとに、ご質問ご意見等いただければと思いますがいかがでしょうか。
宮澤委員	指導員の欠員についてお話ししたいのですが、以前から欠員が続いています。子どもたちが狭い場所で遊んでいるのを見てみると、事故が起きないのが不思議なくらいです。この欠員は深刻な問題で、例えば時給に関してですが、他の区と比べて時給が低いのではないかと懸念があります。こちらについて説明をお願いします。
村山放課後対策課長	手元に正式な情報はありませんが、高い方ではないと思います。先ほどもお話ししたように、今年は「スクールスキップサポーター」の採用希望者が多く、面接待機中の方も数名いらっしゃいます。このポジションは、朝は学校で支援を行い、午後はスキップにて、支援が必要なお子

	さんを中心に見守る仕事です。豊島区ならではの職種であるため、多くの方が興味を持って応募されているようです。しかし、学童に関しては、給与面も影響していると思われます。他の区でも学童指導員の需要があり、競争が激化していることが一因ではないかと考えています。
宮澤委員	その辺って如実に表れるのでお調べいただいて、交渉してできるだけ上げていただきたいと思います。 SSS（スクールスキップサポーター）ってとても良い制度だと思っています。現場での経験からも、支援が必要なお子さんにとって、学校にいる時間と学童に通う時間をつなげて見守ってくれるのは非常に意義深いです。現在の定員が 47 名に増えているとのことですが、以前は 1 校につき 1 名だったのが、増加してきたという理解でよろしいでしょうか。
村山放課後対策課長	おっしゃるとおり、各校 1 名だったところ各校 2 名、あるいは本当に付きっきりになきゃいけないお子さんもいたりするので、そういう場合は 3 名付けておりますので 2 × 22 施設で 44 プラス数名ということで、定数は 47 というふうになっております。
宮澤委員	これはぜひ拡充していただきたいと思います。
福本委員長	ありがとうございます。原委員いかがでしょうか。
原委員	今のお話を聞いていまして、ある学校での出来事について考えていました。普通の授業の時間中、お子さんと SSS（スクール・スキップ・サポーター）だと思うのですが、スキップで対応していたことがありました。その姿を見てこの子はなんで教室行かないのかなって、きっと何か事情があるのだなと思ったのですが、ただ、その子の様子を見ると、こうした取り組みがとても良いことだと思いました。 話は少し変わりますが、私が現在関わっている放課後子ども教室では、4 月の初めにスキップの所長さんや教育委員会の方と年間の打ち合わせを行います。その際、今年の 1 年生の状況についてもお話がありました。その中に人と関わることができない、人と関わることができず孤立してしまっている子どもがいることや、外国籍の子どもについても話を伺いました。ご夫婦が離婚されているみたいでお子さんをお父さんが迎えに来て連れて帰ってしまう、そういうのがあるので放課後子ども教室のときも心得ておいてください、とお話伺ったのです。 スキップとの交流があることで、これらの状況に対する理解が深まり、常に配慮を心がけています。運動会の際にも、同じ学年の競技に出られない子どもがいることを知りましたが、さまざまな先生たちがその子に関わっており、最終的には校長先生の膝のところに座っていたというエピソードがありました。このように、学校全体でその子を理解し支援しようとする教育方針が進んでいることを実感しました。 このようなスキップの活動について最初に話を聞いていたため、私にとって非常に興味深く、見守る姿勢が大変有意義でした。本当にスキップの運営について話を伺えたことに感謝しています。 最後までお話をお聞きいただき、ありがとうございました。
福本委員長	ありがとうございます。その他はいかがでしょう。
宮澤委員	事業費の推移を見ていると、減少傾向にあります。ニーズは依然として高いのですが、予算が削減されている理由は何でしょうか。令和 6 年

	度はマイナスになっていますよね。
福本委員長	この点はいかがでしょうか。お願いいたします。
村山放課後対策課長	一つ一つは受け答えができかねますけれども、児童の数が一つの要因であると考えています。また、人件費についても影響がありますし、国の補助金制度は年によって利用できるものとそうでないものがあるため、その影響もあると思います。詳細については、後日調査し、改めてお示ししたいと思います。
福本委員長	そうですね、この財源に関して予算と決算がかなり乖離していますよね。
村山放課後対策課長	はい。
福本委員長	ではこの事業費の推移に関しては補足で資料なり説明なりを後日いただきたいと思います。
岩間庶務課長	今の事業費につきましては、今後お調べして各委員にご連絡をさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。
福本委員長	分かりました。ありがとうございます。では補足の資料でご説明をいただくということにさせていただきます。 ではちょっと私の方からいくつか質問させていただきたいと思います。最初に気になるのが、取り組み状況に関する活動指標と成果指標の部分です。「子ども会議の開催数」という活動指標と、「子ども会議の決定事項数」という成果指標が設定されていますが、この指標が本当にこの事業の内容を明確に示すものになっているのか疑問です。 具体的には、先ほどのスキップ事業に関する有効性については皆さんが認めている通りです。そのため、この成果指標が事業の実態を反映するものかどうか疑問を感じます。開催数は活動指標としては適切だと思いますが、成果指標として決定事項数を用いることには懸念があります。所長のご説明にもあったように、やる気はあるものの、なかなか成果を出すことが難しいという現状がある中で、決定事項数を成果指標にすることには疑問が残ります。 成果指標はこの事業の実態や効果を見える化するためのものであり、適切な指標を設定しないと本末転倒と言えます。豊島区が力を入れているスキップ事業の実態に合致した指標に見直す必要があると考えます。 次に、事業費の項目についてですが、今後の対策として職員の業務負担について触れたいと思います。先ほどの所長方へのヒアリングで、子ども会議を実施したくないという声があったとのことですが、職員向けの研修などは行っているのでしょうか？会議の開催実績を見たとき、子どもたちが遊ぶ時間を優先したいという意見が多いのは、会議自体が面白くなく、やっている意味がわからないからかもしれません。 そのため、職員が子どもたちを上手に引き込むための技術やスキルを習得する必要があると思います。このようなサポートを行うことで、職員の業務負担の軽減、特に精神的な負担ややりたくないという気持ちの軽減にも繋がるのではないかと考えます。この点について、研修などの取り組みがどのように行われているのか、お伺いしたいと思います。 以上の2点について、ご回答いただけますでしょうか。よろしくお願いします。

村山放課後対策課長	最後の質問の方からお答えさせていただきます。職員の研修というところなんですけれども所長会を毎月開催しております。加えて、OJT 研修として職種ごとに集まり、さまざまな議題を自ら考え、外部から専門家を招いたり、グループワークを行ったりする活動も実施しています。 ヒアリングを通じて、職員の皆様からご指摘いただいた課題について伺いました。特に、委員長がおっしゃった子ども会議の進め方についても、研修のテーマとして取り上げることができればと考えております。ご意見を早速取り入れ、取り組みを進めてまいりたいと思います。 指標に関しては、ご指摘の通りだと思いますので、さらなる指標の検討を進めさせていただきます。次回までに、これらの点について考えておきたいと思います。
福本委員長	ありがとうございます。 我々が評価をするときにここを見て評価せざるを得ないので、適切な評価ができるような情報が他にあるのであれば追加をしていただければと思います。
岩間庶務課長	成果指標につきましては、再度、事務局の方で見直しをさせていただきますして次回の委員会で報告をさせていただければと思いますので、よろしく願いいたします。
福本委員長	ありがとうございます。 成果指標が変わると我々の評価のあり方もだいぶ変わってしまうと思います。ですので、我々としては本当の姿を把握しなければ間違った評価を行ってしまう恐れがありますので、今回のテーマに関しては、さらに実態が明確になる情報の追加をお願いしたいと思います。それを踏まえて、私たちが評価を進めていければと考えています。
宮澤委員	以前、子どもスキップ運営協議会では、利用者である保護者や子どもに対して満足度調査ではないアンケートを実施していました。この調査の目的は、サービスの有効性を評価することでしたが、現在も同様のアンケートを行っているのでしょうか。最近では、このような調査を実施していないのでしょうか。
村山放課後対策課長	子どもスキップ運営協議会は、私も出てはいますが、私が入ってからはまだ見たことはありません。
宮澤委員	そうですか。以前は必ず封筒に入れて集め、その結果をグラフ化して報告していました。そのため、直接的な意見が多く寄せられ、職員の対応が悪いという苦情も来ていましたが。
村山放課後対策課長	別の会議で地域子ども懇談会というのが各施設各スキップで行っているんですけれども、そこに保護者の代表の方2名にも入ってもらうようにいたしました。そこで生の声というのでも聞けるようになっております。
福本委員長	ありがとうございます。 では、これに関しましてはもう少し補足の資料なりデータをいただきたいと思います。 我々はこの情報をこういった情報を持って評価をしていくことになりますので、何かこういう資料が欲しいですとか、ここのところがちょっとクリア

宮澤委員	じゃないのだけどとかっていうことがあれば、ぜひ出していただきたいと思いますのですが、いかがでしょうか。 ここにはありませんが、トラブルや事故の発生について、学校とスキップの連携が重要だと思います。スキップの所長が学校の委員会に参加する仕組みを作っていただくことで、ある程度の協力が得られるのではないかと考えています。豊島区ではその点が分かれているものの、子どもたちの支援として SSS（スクールスキップサポーター）も活用し、積極的に協力していただけると、学校としても非常に助かります。しかし、事故に関しては、発生する原因は狭い場所に起因することもあるかもしれません。その点については具体的な数値は出せませんが、全体的にはどのような状況なのでしょう。
村山放課後対策課長	子どもの怪我も含めて、事故の報告は、各スキップからその都度報告はしてきておりますので、統計はとっております。必要であればそういった資料をお出しすることも可能かと思います。
福本委員長	そうですねその点に関してはぜひ出していただければと思います。他はいかがでしょう。 先ほど子どもスキップ運営協議会は、宮澤委員がおっしゃっていたものだと思うのですが、地域子ども懇談会についてもご説明いただきたいと思います。お願いいたします。
村山放課後対策課長	地域子ども懇談会は、校長先生や学校関係者、放課後対策課の職員、現場で活動されているコーディネーター、近隣の保育園関係者、区民ひろばの関係者、そして町会長などが集まり、日常の子どもスキップ事業の紹介や、出席者からの要望、支援の提案などの意見交換が行われます。各施設で年に1回開催しています。
福本委員長	ありがとうございます。 私が質問した理由は、この事業の対象が区内在住の全児童と、子どもスキップを利用している児童の保護者であることにあります。このことから、子どもスキップについての取り組みだけでなく、通わせている保護者に関する情報やデータも重要であると考えます。 繰り返しになりますが、この事業は必要な取り組みであり、多くの活動が行われていると思います。しかし、今日いただいた情報では断片的で、全体像が見えにくいと感じています。ですので、対象者に関する詳細や、事業の評価に役立つようなデータ、視覚的な資料などがあれば、ぜひご提供いただければと思います。この点についてはいかがでしょうか。
村山放課後対策課長	検討して出せる資料を提出したいと思います。
福本委員長	よろしくお願いいたします。 その他の委員の皆様はいかがでしょう。よろしいでしょうか。 本日は今年度の評価対象事業の一つである「子どもスキップの運営」について、担当の方からご説明をいただきました。 ポイントとしては、職員に関する問題点とその状況が挙げられますが、それについての対策をどう進めていくかという点が重要です。また、事業費については、今日の説明では理解が十分に得られなかったため、今後、補足情報をいただくと助かります。

岩間庶務課長	さらに、この事業を多角的に評価できるような情報も少しいただきたいと考えております。それぞれの情報については次回確認できればと思いますが、よろしいでしょうか。 まず事業費につきまして、こちらはすぐにわかると思いますので、委員の皆様には明日以降、メール等で事業費の範囲や減少の理由についてお送り致します。 次に指標につきましては、次回に改めて、こういった指標が適しているのかっていうところを提案させていただければと思います。 それから資料につきましては、例えば「こういった資料が欲しい」というご要望がありましたら、ぜひご連絡ください。可能な限りお応えできる資料をお送りさせていただきたいと思います。
福本委員長	ありがとうございます。 急いで作るのではなく、次回で十分だと思います。特に確認しておきたい点があります。一つは、運営協議会等で行われている保護者のニーズや感覚についてのアンケートが過去にはあったという情報を宮澤委員から伺いました。そのため過去のデータを探していただき、現在行われているかも含め確認をしていただきたいと思います。 あと事件や事故に関する件数や内容についてもご提示いただきたいと思います。 それからもし可能でしたら、実施している研修についての具体的な内容について教えていただきたいと思います。 あとですね、私がすべて聞き取れなかったのですが、先ほど職員の人数についてお話しいただいたかと思います。その数字をいただけると助かります。 他に補足資料などがありますでしょうか。宮澤委員いかがでしょうか。
宮澤委員	それだけいただければ大丈夫だと思います。
福本委員長	では可能な限り次回ということで急ぎませんのでご用意いただければと思います。 委員の皆様この案件に関してはこれでよろしいでしょうか。 評価は今いただいたご意見、それから本日の資料、それから追加されるデータ資料等を踏まえ、すべてまとめてこの委員会の最終回に評価を行っていくという形にしたいと思います。 本日は活発なご議論ができたのではないかなというふうに思います。それではこれで本日の審議は終了させていただきたいというふうに思います。ありがとうございました。
岩間庶務課長	次回の日程について説明
福本委員長	それでは以上をもちまして第1回教育に関する事務の点検・評価委員会を閉会いたします。 —閉会—

提出された資料等	【資料1】教育に関する事務の点検・評価の実施について 【資料1(別紙1)】令和5年度教育に関する事務の点検 事業分析シート(様式) 【資料1(別紙2)】令和5年度教育に関する事務の点検 評価票(様式) 【資料2】令和5年度評価実施事業 取り組み状況報告書 【資料3】令和5年度教育に関する事務の点検 事業分析シート「子どもスキップの運営」 【資料3(別紙1)】令和5年度 子ども会議(利用者会議)開催実績 【資料3(別紙2)】施設別学童クラブ利用登録者数等の推移 【参考資料1】教育に関する事務の点検・評価委員会設置要綱 【参考資料2】教育に関する事務の点検・評価実施要綱
----------	---